

あきる野の自然は素晴らしい。その理由のひとつは、多様性により生まれる生き物の間の複雑な絆です。生きるために競争し、自然のシステムが成り立っています。

今回のテーマは「**動物の争い**」です。人にとっては争いは切ないことですが、自然界では欠かせません。「進化」や「多様性」、自然界の「バランス」のために生き物が生々しく「争う姿」を紹介します。

森の中だけでなく、身近な「畑」でも、争う生き物がたくさん見られます。ある日、枝で鳴いているカッコウを見ていると、一回り小さいヒヨドリがカッコウを追払いに来ました。カッコウの仲間は他の野鳥の巣に托卵(たくらん)することから、警戒されたのでしょう。



## 最強のヘビは??

「やはり、毒を持っているヘビでしょう」と思う人が多いはずですが、実は毒よりも、「スピード」や「強さ」の方が有利になる場合があります。

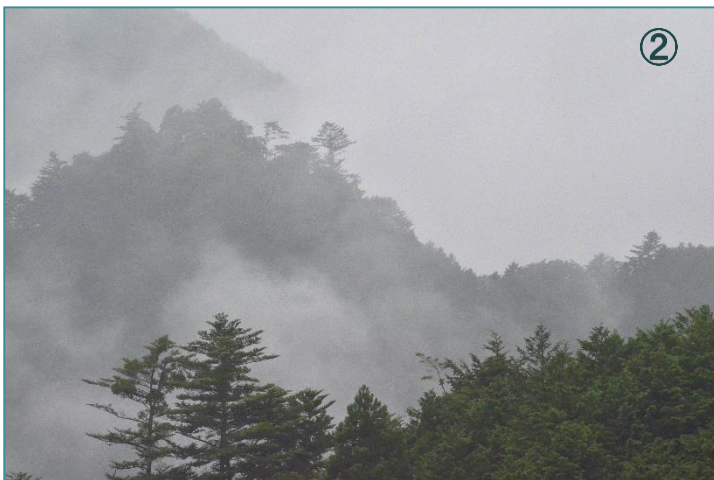
昨年の出来事ですが、シマヘビがニホンマムシを捕食している瞬間を目撃しました。マムシは強い毒を持っていますが、自分よりもずっと大きく、攻撃力の高いシマヘビに敗れたのです。私の予想ですが、シマヘビは本州に生息するヘビ類の中では、一番「動きが早い」種であることが大きな勝因と思われます。

他にも、シマヘビやヤマカガシより大きく、本州で最も強いと考えられるアオダイショウがありますが、まだマムシと争っているところを見たことはありません…

## 梅雨のスターたち ☆☆☆

今年の梅雨で最も印象に残った動物や風景を紹介します。

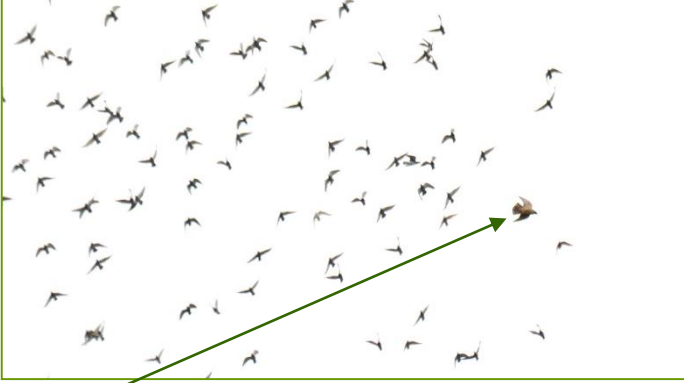
- ①スミナガシ。「墨」を「流す」ような模様をしているため、この名前が付けられました。実に絶妙な美しさです。梅雨入りすると奥山の沢筋などでよく見かけるようになります。
- ②霧雨の中の青木平周辺の山々。梅雨が少し苦手な私でも、感動した風景です。どの季節でも魅力があると感じさせたワンショットです。
- ③ヤマサナエ。絶滅危惧種に指定されており、市内での生息も既に報告されていますが、私は初確認となります。





### 空族の戦い

5年前に紹介した内容(Vol.21)の第2戦です。我々が穏やかに日常生活を過ごしている頭上で、身近な緑地や奥山などの大空を舞う「空族」たちは生き残るために日々たくましく争っています。そのたくましさや迫力を紹介します。



オオタカの若い個体は、生まれて数か月で親鳥から独立し、狩に挑戦します。秋に、ハトやムクドリの子の群れに一生懸命突っ込む姿を頻繁に目撃します。

トビがいつも留まり場で使う枝にいたノスリに「俺の席だ!」と、伝えに来たようなシーンでした。

お気に入りの場所を譲ることは絶対にありません。ノスリは、空から攻撃してきたトビにキックで反撃しましたが、しつこいトビに諦めたのか、ノスリは移動していきました。



(上)猛禽類の繁殖地に別の猛禽類が侵入することは許されない行動です。早速、激しい喧嘩が始まりました。左側のクマタカが侵入者のトビを追いかけしています。

(右)自分の縄張を守るため、小さなツミは倍以上の大きさもあるノスリをしつこく突きます。ノスリがガードする瞬間です。



(上)河原などでよく見られるトビが、イタチの死骸を見つけました。安全に捕食できる場所まで必死に移動しているときに、体の軽いカラスが猛スピードで接近し、横取りしようとしています。

(下)ハシボソガラスの群れが留まる森に、渡り中のハチクマが現れました。カラスのボス(?)は直ぐに動き、ハチクマに「移動する」という選択肢しか与えませんでした。



次の「空のバトル」は、あなたの頭上で起きているかも知れません… ハイキングや河原での散歩中など、時々空を見上げると良いバトルの観察ができます。

(パブロ)

